

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年7月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100625号
法人名	株式会社 ショコラ
事業所名	グループホーム ショコラながかり
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿九丁目9番13号 (電話) 099-802-4834
自己評価作成日	平成29年6月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、宇宿の閑静な住宅街に立地しており、すぐ近くに医療機関やスーパーなどあり、利便性に恵まれた環境の中にあります。また、小規模多機能ホームも同じ敷地内に併設しております。ショコラグループとして、グループホームショコラうすき・ショコラうすき通い・共同託児所ぶちショコラ・かごしまショコラ保育園・しょこらクリニックの事業も行っております。子ども達との交流を取り入れる中で、ご利用者様の日常生活に活力をもたらし、生きがいや心の充足に繋がる環境作りに取り組んでおります。グループホームながかり独自の理念として、『一日一日を大切に相手に合わせる介護をする』をモットーにご利用者様の気持ちに寄り添い傾けることを重視して日々支援しております。また、「昨日より素晴らしい今日にしよう」という気持ちで、自分らしく充実したひとときを過ごしていただけるよう、スタッフ一同で日々努力しております。ご利用者様とご家族様との絆や関係作りを大切に、より良い時間の提供を行っております。また、施設の中での生活をよくわかっていたただけるように、日々の様子を写真やビデオに写し、家族に閲覧していただいたりお手紙を添えて配布したりしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、幹線道路から近い閑静な住宅街に位置しており、1階は小規模多機能ホームが併設され、ユニットは2階にある。ユニット責任者は、小規模との兼務で勤務していることから利用者や地域の実情に精通しており、事業所の利点を活かし日常的に相互交流ができるよう取り組んでいる。
- 年2回、家族向けのアンケート調査を実施し結果を受けて、職員のサービスの質の向上や要望などに応えるべく家族会や運営推進会議などで報告や話し合いを行い、意見や要望などをサービスに活かしている。
- 理念は、玄関に掲示されており朝礼で理念に基づく運営方針が掲載されている「行動手帳」にて唱和している。また、職員は勉強会の時、「ショコラ経営の原点120条」を唱和して意識づけをおこない、管理者や職員が共に理念を共有して職務に取り組むことを目指している。
- 献立は、管理栄養士が作成し栄養管理がされているが、誕生会は、うなぎ、ちらし寿司、焼き肉などのリクエストも多く、いつまでも美味しく食事が摂れるよう創意工夫を凝らし、鍋料理を堪能し家庭的な雰囲気を楽しむなどしている。毎年、利用者の誕生日には本人の行きたい場所に家族、職員が付き添って外食をしたり、思い出作りなどして共に同じ時間を共有し一人ひとりの思いに応えるなど柔軟に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の見直しは毎年職員全員で行いグループホーム入口に掲示している。毎朝朝礼で理念に基づく運営方針を盛り込んだ「行動手帳」を唱和し互いに意識づけあいケアにつながる理念の実践に向け取り組んでいる。	開設当初から変わらぬ理念は、玄関に掲示されパンフレットにも掲載している。ミーティングで法人の理念を中心に職員全員で唱和し、振り返りの機会を設け見直しを検討し、理念を共有して利用者本位の介護の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の行事へは、職員だけではなく可能な限り入居者様も一緒に参加し地域住民との交流を図っている。（夏祭り、敬老会等）向陽小学校の職場体験の受け入れなども行っている。	地域の行事（夏祭り、敬老会、運動会）には、職員が役員として参加するなど協力関係を築いている。職員は、小規模多機能ホームの利用者を通じて地域交流し、ホームの行事には法人合同で参加促進を勧めている。地域の方から野菜などの差し入れがある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の町内会の話し合いに参加したり、日常的に地域住民と交流することで、情報の提供や情報収集しやすい状況づくりに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族に対しては年2回アンケートや調査を実施しているが、回答しやすいように無記名回答とし返信用封筒を同封している。頂いた意見については、家族会や運営推進会議にて話し合い、改善を図っている。	会議は、より多くの家族の参加が見込めるよう日曜日に開催したり、家族交流会と同日にするなど工夫している。管理者は、会議の内容を見直したいと考えており、今後ミニ研修会などを取り入れるなど家族や地域住民などが福祉や介護だけにとらわれず日常生活上役立つ知識などを職員とともに研鑽できるように検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会合などの案内がある場合は、積極的に参加している。また、ホームページ等閲覧し、サービスの向上に努めている。	日常は、地域包括支援センター職員と連携することが多く、生活保護受給者もおられ福祉事務所との協力関係も築いている。介護相談員の受け入れを積極的におこないサービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止の研修を行っている。研修を通して身体拘束に対して理解している。施設の施錠は日中はしてないが、20時以降は防犯のため施錠をしている。	四点柵にて転落防止を図るため身体拘束を実施している方や夜間のみ徘徊感知機器を使用している方がいるが、身体拘束の廃止に向けた委員会の開催や勉強会、リスクマネジメント・事故防止についての勉強会などを毎年実施している。離設傾向の方もおられるためさらなる安全対策や職員の意識向上が必要であると職員は検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内定期研修にて高齢者虐待関連法を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内定期研修にて地域福祉権利擁護事業や青年後見制度を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。入居者が必要な方にはそれらを活用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い、不安や疑問点がなくなり、納得を得たうえで契約に関する行為を進めるよう留意している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の生活の中で利用者と対話する機会をもうけるよう心がけ、自然なかたちで利用者の思いを引き出せるよう努めている。また、年2回ご家族様へアンケートを実施している。</p>	<p>職員は、利用者や家族との面談時や日々の暮らし、行事、アンケート調査の結果（年2回実施）を受けてミーティングで話し合うようにしている。利用者は、日々の暮らしの中で意見や希望などを言葉にして下さる方も多く、職員は、意見などが出しやすい雰囲気作りやタイミングを図っている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年2回、職員が会社を書面で評価する機会、そして面談にて意見を聞く機会を設けている。</p>	<p>利用者のレクリエーション活動の促進や職員の業務負担軽減など効率性を考え運動会の道具作り・制作を利用者とともにおこなうといった意見が職員から出され実施している。人事考課システムがあり、随時、代表者や管理者などと面談をおこない意見や提案などを聞く機会を設けている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>現場へ足を運び、ミーティング等への出席をすることで状況を把握している。職員とのコミュニケーションもとれている。給与は資格だけを考慮して決めるのではなく、職員本人の努力や実績、勤務状況、他職員からの評価を考慮したうえで決める体制にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社が立てている年間の計画を基に、毎月定期研修や勉強会が行われている。さらに、ケアの質の向上を目指して、スタッフ向けのスキルアップ勉強会を月1回行っている。新人職員には、主任、主任補佐が中心となって育成する体制をとっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者・職員との研修会、食事会の機会を設けるなどして意見や要望を伝えたり、相談しやすい環境づくりを心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず見学、スタッフの訪問を行うようにしている。その上で、本人に納得して入居してもらい、本人の不安や要望をよく聞くようにし受け止める努力をしている。また他の介護保険サービスの説明をするように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等についても上記同様、納得してもらったうえで利用してもらえるよう十分な話し合いに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって、今一番必要な支援の方法を共に考え、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の好きなこと、得意なことを引き出し、長年の技や知恵などを教わるなどして、本人の人格を尊重しながら過ごすよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪した際は、本人の近況報告を行っている。また、日々の様子を知ってもらえるように「ショコラ便り」にお手紙と写真を添えて定期的にお知らせしたり、電話連絡等を行っている。行事には家族にも参加していただくことで、本人と家族の良い関係が保てるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族などに行事の案内（外出レクリエーション・誕生日会）をして、出来るだけ馴染みのある方々に参加していただけるよう提案している。	家族向けの行事計画書を配布し、家族などがホームに足を運びやすいよう取り組んでいる。また、利用者の誕生日の外出は、家族と職員が付き添い本人が行きたい所に出かけている。訪問ヘアカットの方、訪問マッサージの方との馴染みの関係もあり、花火大会、墓参りなどは地域の方々との交流や社会との交流の機会に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性等に配慮して心地よい時間を過ごして頂けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時の情報提供や、またその後も必要な方には継続的な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その方らしい生き方」を中心に考え、介護者の自己満足にならないようなケアを心掛けている。	常に、本人や家族の思いに寄り合い担当職員を中心にモニタリング結果を踏まえ、アセスメントにて情報収集し職員間で話し合っている。介護計画書には、本人の言葉だったり、家族と共有した本人の思いを代弁して記載するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、家族や前施設から情報を収集し、状況を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時の申し送りや定期的ミーティングを行う中で、利用者の状態を話し合い、今後のより良いケアについて検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を重視し、また担当者会議の中でも職員も意見を出し合いながら、利用者本意の介護計画の作成を心掛けている。	利用者、家族の希望や意向を踏まえ、担当者が中心になりアセスメント情報を計画作成担当者や職員と情報共有している。また、課題を分析し目標が達成できるよう利用者、家族、関係者間で話し合い、音楽カリキュラム、託児所での子供との交流活動、裁縫などを個別レクリエーションに取り入れ意欲を高め利用者が本人らしくより良い暮らしを実現するために現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについては、個別のサービス記録により、状態の変化を継続的に見ることができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	建物内に小規模多機能施設を備えており、在宅復帰後も慣れた空間を継続的に利用できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者・地域消防施設隊員を交えての消防訓練を年2回行っている。地域のボランティアによってイベント等に参加してもらい、楽器演奏や踊りを行って、地域に開けた施設をめざしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を第一に、かかりつけ医の選択を行っている。通院は家族も同行を基本としているが、必要時には家族の了承のもとで職員が同行している。	隔週の訪問診療、オンコール体制があり24時間医療連携が図られている。薬剤師の訪問もあり、ダブルチェック体制などが功を奏し誤薬も少ない。定期や随時の受診などは、家族に協力を頂戴したり了解をいただきながら職員が同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>1週間に1度しよこらクリニック看護師が健康チェックに来て下さり、利用者様の体調不良時など、連絡するとすぐに診に来て下さる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力医療機関との連携を図り緊急時すぐに受け入れ体制を整えてもらえるようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合などの対応については、本人や家族からの希望を第一に考え、事業所内でも「緊急時の対応及び看取りに関する方針」において方針を定めている。</p>	<p>これまでに看取りの経験もあり、契約時に看取りを希望される利用者、家族も多い。「重度化した場合の看取りの指針」は、終末期支援に特化している指針であるため、職員は今後、重度化に伴う意思確認を文書化し、ホームが対応できることを十分に説明しながら方針を共有して主治医や家族、関係者間で共にチーム支援ができるよう取り組んでいくことを検討している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当や初期対応の訓練を施設内で研修を行っている。また、消防署が開催している普通救命講習を受講している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回行われる消防訓練においては、様々な状況を想定しての訓練に取り組んでいる。地域の方々とは日頃からお付き合いを大事にして緊急時には協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署立会いの避難訓練を年2回実施し、ユニットが2階にあるため避難の際は、実際に階段を使い本番さながらの訓練を実施している。階段は踊り場も広く避難時は安全確保ができる。また、ペットボトル、インスタント食品などを備蓄している。地域の協力体制については今後の課題として検討しているところである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人権を尊重する言葉掛けや対応を行っている。	居室は、本人の希望に応じて暖簾を掛けておられる方がいたり、食事を居室で取られる方の個別対応もあり、自己の思いを尊重した対応を心がけている。職員は、朝礼やミーティングなどで言葉使いや不適切な対応について触れ共通認識を図るとともに勉強会で接遇マナーについて学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を第一とするために、普段から対話をして想いを引き出せるような環境作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・公文式等一日の流れを作りながら、利用者本人の希望やペースで参加出来るようにし、職員本意のケアにならないように注意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ホームへの出張カットやヘアカラーを利用し、本人及び家族の希望に沿った方針で支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の誕生日、行事には特別メニューを設けている。食事について興味を持ってもらえるよう、盛付けや配膳、片づけを一緒に行っている。	献立は管理栄養士が作成しているが、誕生会などはリクエストに応えたり、バイキング料理、鍋料理などは利用者に好評で、季節を問わない鍋パーティ、誕生会は家族に囲まれ笑顔の絶えない会食となっている。力量に応じて食事の準備や片付けをされる方もおられるが、ソフト食、介護食といった形態の方もおられ美味しく食事が摂れるよう食卓の雰囲気作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士にてカロリー計算されており、摂取量の記録と週1回の体重測定を実施している。また、利用者の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫や、介護用食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。歯科衛生士の職員により口腔指導を行い、一人一人にあったケアをしている。また、必要に応じて歯科往診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、現状によりおむつの検討も行い、本人に気持ち良く排泄してもらえるように支援している。	トイレで排泄される方が大半であり、夜間、ポータブルトイレを併用され排泄の自立を図る方もある。職員は、オムツの勉強会を開催し、最新の情報を共有して品質の影響を家族に説明したり、オムツの使用量などがいつでも説明ができるよう準備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態や量を記録し、排便の状況を把握している。水分摂取の促しや散歩の実施（雨天時は室内レクにて歩行）や腹部マッサージ、またアルカリイオン水の飲用や食物繊維を積極的に取り入れるなどして、極力、薬に頼らないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本の入浴日（火・木・土）は決まっているがその他の日でも本人の希望があれば入浴可能である。必要に応じて、足浴・清拭も実施している。	年間を通して浴槽に浸かりゆっくりと入浴を楽しまれる方も多く、重度化した場合などは、1階に機械浴が設置してある。職員向けスキルアップ研修会では、年3回研修内容を変えて入浴方法などについて知識や技術を研鑽している。また、家族と銭湯に行かれる方がおられるなど入浴しない日も保清に努められるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や身体状況を把握し、お昼寝が習慣の利用者にはゆっくりして頂けるような空間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書きを利用者ごとの個人ファイルに添付している。また薬の内容が変わった時にはその都度申し送りし、利用者の変化に職員全員で気付けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや片付け、洗濯や掃除などそれぞれの役割をもって行っている。園芸や裁縫等の趣味を取り入れ、日常生活を楽しめるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などには、気分転換や体力作りを兼ねて、一緒に戸外へ出る機会をできるだけ多く作るようにしている。年間行事計画を立て、外出レクにご利用者様や家族と出かけられるように支援している。	毎年、行事計画を作成し、初詣、運動会は近隣の公園で実施、町内会の夏祭り、今年から、春、秋に遠足を計画している。10月は、動物園に行く予定である。また、春の踊り会、敬老会、クリスマス会は、小規模多機能ホーム利用者、家族、同法人のグループホームの利用者、職員と合同で楽しんでいる。毎年、バースディプレゼントとして利用者の行きたい場所に家族、職員が連れ添って外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人・家族と話し合い、それぞれの利用者の力量、希望に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	贈り物があつたときに本人からお電話をするようにしたり、また季節のお便り（暑中見舞いや年賀状）を書く機会を設けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーに配慮することはもちろん、飾り付けやお花を飾ったりして、ご利用者様に季節感を感じてもらえるようにしている。洗い物をする時などは、出来るだけご利用者様に不快感を与えないように、音を立てないようになど心掛けている。	玄関には、法人とホームの理念が掲示され、2階ユニットのため玄関から明るく眺望も良くリビングまでが見通しよく設えてある。天井が高く、採光もあり開放感がある。対面式キッチンであり、家庭的な雰囲気がある。また、手作りのかざりや生花が季節を感じさせてくれる。壁にはぬり絵などの作品が掲示してあり、利用者は新聞を読んだりお茶を飲んだり、ベットで横になるなど思い思いに過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和気あいあいと過ごせるように、ソファやマッサージ機を置き、好きな所で好きなように過ごせるようにしている。</p>			
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に従来使っていた馴染みの家具や装飾品を持ち込んでもらい本人が居心地良く過ごせるように工夫している。</p>	<p>ベット、洗面台、クローゼットなどが備え付けてあり、籐の椅子や仏壇、家族写真などを持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫し、テレビの持ち込みが多い。衣類などは季節に応じて大半の方に家族に入れ替えをお願いしているが遠方の方には職員が対応している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>「安全で使いやすい」を念頭において、トイレや浴室に手すりをつけている。動線には、物を置かないようにし、安全に歩行出来るようにしている。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない